
洋食屋 コッペリア

シュレディンガーの羊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

洋食屋 コッペリア

【Nコード】

N1171Z

【作者名】

シュレディンガーの羊

【あらすじ】

賑やかさから少し離れた路地裏。
そこにその店はある。

キヤラメル色の外装に、白い屋根。

こじんまりとした店内には四組の机。

窓枠には曖昧な微笑を浮かべた白磁人形が腰掛けていて、その隣でアンティーク調のオルゴールが回り続けている。

『洋食屋 コッペリア』

今日も、澄んだドアベルが来客を告げる。

01。珈琲と紅茶。（前書き）

賑やかさから少し離れた路地裏。

そこにその店はある。

キヤラメル色の外装に、白い屋根。

こじんまりとした店内には四組の机。

窓枠には曖昧な微笑を浮かべた白磁人形が腰掛けていて、その隣でアンティーク調のオルゴールが回り続けている。

『洋食屋 コッペリア』

今日も、澄んだドアベルが来客を告げる。

01。珈琲と紅茶。

机を挟んで向かい合うのは、
スーツ姿と学生服の二人。

机の上でふわりと湯気が揺れた。
珈琲の香ばしい香りが鼻孔をくすぐる。

「都会の社会人になった、って言ってもあんま変わんないもんだね」
「すぐ変わったら可哀しいだろ。お前こそ高校生には見えないぞ、
その身長」

「そういう兄貴も身長低いくせに」
「生意気言うようにもなったなあ。昔は俺の真似ばかりして可愛かったのに」

「はあ？」

「俺のおもちやをやたら欲しがったりとか、俺の後ろをちまちまついて来たりさ」

「何歳の頃の話だよ、それ」
「これだって、そうだよ」

持ち上げられたカップの中で、珈琲が波打つ。
ミルクも砂糖も入っていないそれは、どこまでも漆黒に似ている。

「俺が背伸びして飲むのを、真似して飲んで苦い苦いつて半泣きしてたよな。そのくせ懲りずに何度も真似するし」

「……そんなことよく覚えてんね」

「で、俺がその後になんかなく砂糖とミルクたっぷり紅茶入れ

てやると超喜ぶ」

「それ、むしろ逆だから。兄貴がその紅茶を入れてくれるから、苦い珈琲を毎回懲りずに飲んでたわけ」

もう一方のカップには、琥珀色の紅茶がなみなみと入れられている。それにミルクを垂らし、その次に角砂糖を落とす。

「へえ。子供なりにずる賢かったわけだ」

「気づかなかった兄貴は鈍かったわけだ」

「俺も若かったってことだな」

「うわ、まだ二十代のくせに」

「で、今はもうブラック飲めんの？」

押し寄られた半分に残った珈琲のカップ。

机に並ぶ紅茶と珈琲。

ふっと緩んだ空気に、甘い香りが混じる。

「飲めなくていいよ。もう兄貴を目指すのはやめたから」

「賢明だな。で、これからの方針は？」

「これからは、紅茶の似合う可愛い女子高生を目指す」

「ぜひそうしてくれ。もともと勇ましい妹より、可愛い妹が欲しかったんだ」

「また家、帰ってきなよ」

「そしたら、また紅茶入れてやるよ」

「うん。楽しみにしとく」

ドアベルが澄んだ音をたてた。

並んで出ていく兄妹を見送りながら、店長は一人微笑む。

「睦まじいご兄妹様、またお越しく下さい」

01。珈琲と紅茶。（後書き）

【コンセプト】

始まりと終わり定型文。

会話文メイン。描写は少量。

場には、客二人と店長一人。

注文は二品。多少は描写すること。

ちよっとほんわか。を目指してみる。

「あき」と二人企画。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1171z/>

洋食屋 コッペリア

2011年12月4日11時04分発行